

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 〈全国学力・学習状況調査〉令和5年4月18日(火)実施(対象:小6、中3) 平均正答率(%)

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語(話すこと調査以外)
大竹市	71	63	71	49	43
広島県	69	64	70	49	43
県との差	+2	-1	+1	±0	±0
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
全国との差	+3.8	+0.5	+1.2	-2.0	-2.6

2 〈全国学力・学習状況調査〉結果の分析について



【学力調査の結果について】

- 小学校の平均正答率は、国語で全国平均と県平均を上回っています。算数は、全国平均を上回っていますが、県平均を下回っています。国語では、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」に課題がみられました。算数では、「図形領域」に課題が見られました。「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかみる問題」、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかみる問題」の正答率が低かったです。
- 中学校の平均正答率は、国語で全国平均と県平均を上回っています。数学、英語では、県平均と同じで、全国平均を下回っています。国語では、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかみる問題」に課題が見られました。数学では、算数と同様に「図形領域」に課題が見られ、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかみる問題」、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明できるかみる問題」で正答率が低かったです。英語では、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題」、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題」といった「書くこと」に課題がありました。

【今後に向けて】

学力向上につながる授業づくりに向け、今後、特に次の3点について、取り組んでいきます。

- ① 基礎的・基本的な学習内容について、定着に課題のあった内容のつまずき等の分析を行い、当該学年だけでなく、系統的にくり返し指導を行えるように、学習計画の見直し・実践を行います。特に、算数、数学の図形領域は小・中学校で課題があるため、繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ります。
- ② 授業において、思考力・判断力・表現力が身に付くような課題発見・解決学習を設定します。児童生徒が課題の解決に向けて、様々な思考、判断をし、それを表現する場を設定することで、思考力・判断力・表現力の向上につなげていきます。国語、英語では、「書くこと」に課題が見られるため、授業で児童生徒が「書く」活動を設定し、書く力の定着を図ります。
- ③ 授業のめあてを明確にし、何がわかったか、どんなことができるようになったか等、ていねいな振り返りを行うことで、児童生徒が「できた」「わかった」と感じ、「主体的な学び」に向かうようにしていきます。